

## 第6章 ワークショップにおけるエスノメソドロジー

八木 大斗 (C班)

小笠原 都子 (C班)

### 1. 調査方法

ワークショップでの相互行為の調査を目的に、2011年11月12日に徳島大学内で行われた「在宅医療の現状と課題」のワークショップのビデオ撮影を行った。

### 2. 調査概要

2011年11月12日に行われた講演とワークショップの2部構成で行われ、学生7名がワークショップに参加した。ワークショップではA班4名とB班3名に分かれ、本調査ではB班を中心に分析を行っている。B班は、学生3人と外部から参加している方2名(以下Kさん、Oさん)となっており、学生はそれぞれ司会、書記、板書と役割を決めていた。

司会が進行を務め、司会 板書 書記の順で与えられた在宅医療の問題に対してだされた課題(4問)への意見を述べていた。その後にKさん、Oさんが質問や意見を述べて、最終的に司会が意見をまとめるという形になっていた。Kさん、Oさんがたくさん話すことがあり、学生とKさん・Oさんとの対話が少なかった。

機材：ワイヤレスマイク付きビデオカメラ3台(DV21、DV22、真鍋カメラ)

デジタルカメラ一台

ICレコーダー1台

被撮影者：学生3名、Kさん、Oさん

表1 . 2011年11月12日(土)ワークショップの進行内容

時間	内容
12:50~	Kさんによる講演
14:14~	A・B班に分かれてワークショップ(在宅医療の現状と課題について)
15:43~	A班発表
15:52~	B班発表
16:10	ワークショップ終了

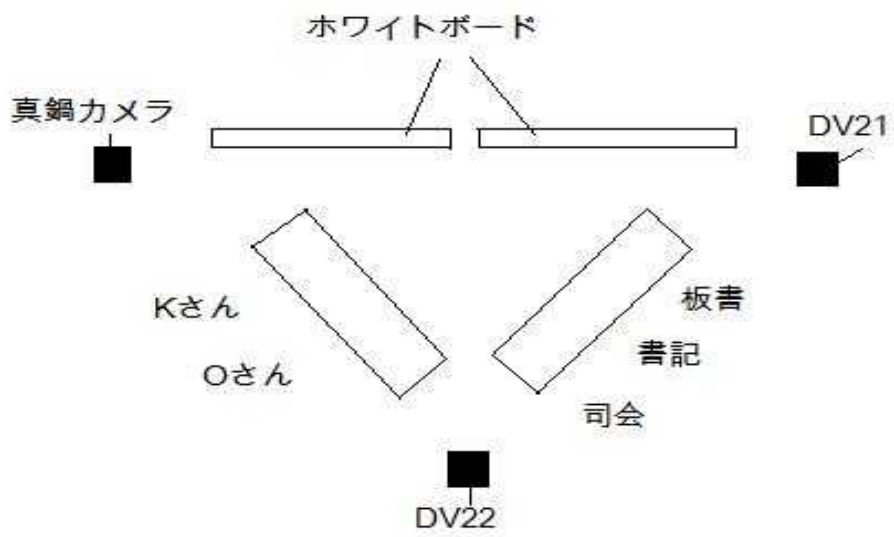


図1 . 11/12 カメラ位置

### 3. データと分析

ワークショップ中に行われる板書に注目し、分析を行った。

#### 3 - 1 . <断片 1 : 板書の場面 2 : 29 : 35 ~ 230 : 14 のトランスクリプト>

DV21 vol.4 2:30:08

DV22 vol.3 2:30:08

真鍋カメラ vol.4 2:30:08



写真 1 : 座席配置 DV22 2:30:10)

- 01 : Kさん : あんなんで家(.)はようみないって私は家でみたかったそこであの : (.)同じ=  
02 : : = あの:なんていうんですか私が一所懸命やって色々知識があるもんでも =  
03 : : = いざとなったら(.)病院の方に ( ) しまったという面もあるのでだか=  
04 : : = ら解消するべきなのかどうかというのはちょっと(.)  
05 : 板書 : (( 立ち上がろうとする ))  
06 : Kさん : 私はその場でその場で(.)臨機応変ですの方が(.)いいのかなあとと思います(0.2)  
07 : 板書 : (( 立ち上がる ))  
08 : Kさん : どう思われますか

### 3 - 1 - 1 . 考察

板書の方はKさんの話が終ろうとするときに立ち上がり、板書を開始している。この前に、板書の方はペンを持ってホワイトボードを見ており、この時から、板書する内容を考えていて、Kさんの話の切れ目、トランスクリプトで言う「臨機応変ですの方が(.)」のわずかな会話の隙間に立ち上がり板書を開始している。この「臨機応変ですの方が(.)」の部分はKさんの話の結論を意味する言葉であり、この結論を聞いた後、板書方は板書に行っていることから、話の切れ目＝話の結論として板書は判断しているのだと考えられる。



写真2．板書がペンを持ってホワイトボードに向かっている場面：DV21 2:30:06

しかし、板書の内容を参照してみたところ、Kさんが発したまとめのような記述はみつからなかったため、確かであるとは言えない。

## 第一ワークショップ

- 問題1
- ・ 必ずしも、看取りの場所は介護者が決めるべき。
  - ・ 必要ある。緊急時の対応に関し介護者のある程度覚悟が必要。
  - ・ 介護士に押し付けられる側は意見が一致させるべき。
  - ・ いざという時には病院に頼ってしまう。
  - ・ 周囲の環境次第。都会と田舎でシステムが違う。



結論 関係者本人の意思を尊重しつつも、  
介護の環境 症状等を考慮して 選択  
すべき。

写真 3. 板書内容 デジタルカメラ 14 : 45

### 3 - 2 . <断片 2 : 板書が書記のパソコンを見る場面>

DV21 vol.6 2:40:45~

DV22 vol.5 2:40:45~

真鍋カメラ vol.6 2:40:45~



写真 4 . 書記のパソコンを見つつ板書を行う場面 : DV21 2:41:16

#### 3 - 2 - 1 . 考察

まとめを板書する場面。隣にいる書記と確認しており、書記がまとめた内容を見ながら板書の内容を板書している。その間は司会がまとめの意見を述べている。

司会のまとめを聞いてから板書するのではなく同時に板書しているので、板書担当者自身でまとめの内容を考えているのがわかる。あと見えやすいように工夫して板書している。

《パソコンの内容(2011/11/12 14:53)での板書に使われたところ》(写真 4)

結論：関係者本人とちの意見を尊敬したうえで、介護力、病気、周囲の環境によって、

《板書の内容》(写真 5)

結論：関係者本人の意思を尊重したうえで介護力・環境・症状等を考慮して選択すべき。

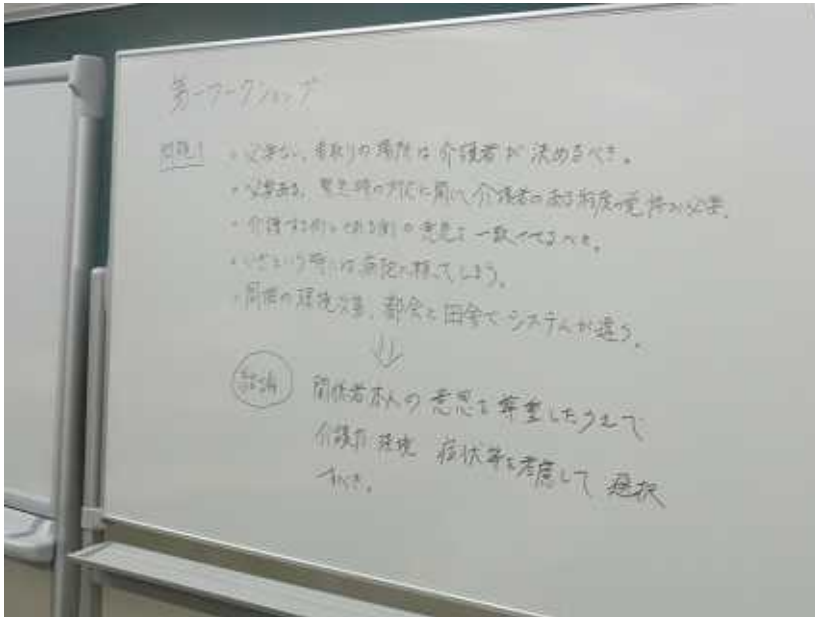


写真 5. デジタルカメラ 14 : 45

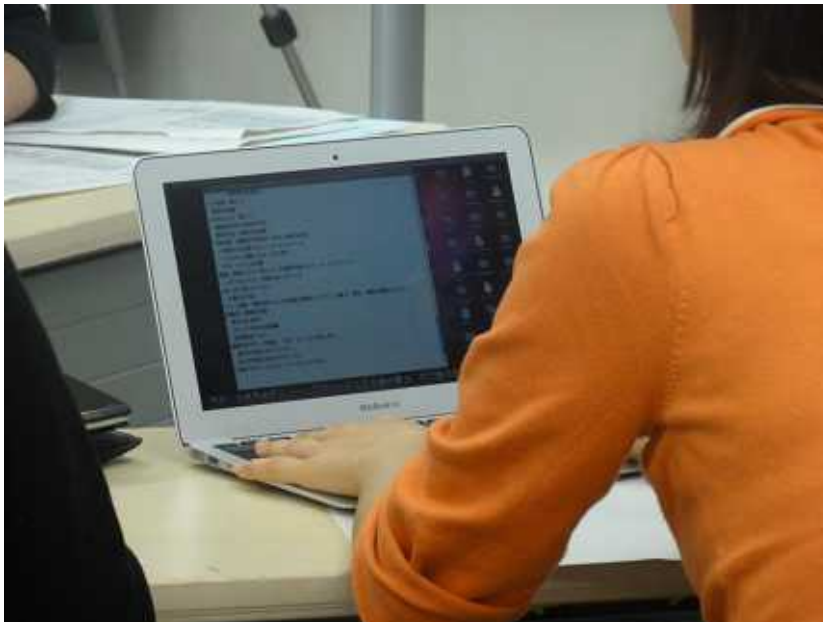


写真 6. デジタルカメラ 14 : 53





### 3 - 3 - 1 . 考察

Kさんの意見に大きく頷いたあと、板書へと行動を移した。これはKさんの意見を板書担当者が理解したためだと考える。

また、この“うなずき”という行動は立ち上がるための理由の表示とも考えられる。うなずくことによって、会話に何かの区切りを生み出し、板書するという行動に移っているのではないだろうか。

この考えは『会話分析への招待』(山田 1999:27p)の中で山田富秋が述べている下記内容すなわち

そしてトピックや物語の終わりの場所(スロット)において、聞き手は今の物語について、さらに説明を求めたり、物語のオチに対する理解を示し、物語の内容に同意したり反対したりする。

に見られるように、板書の大きく頷く動作はKさんの物語に対する理解であり、同時に、Kさんの物語を終了させる意味も持っているのではないか。

そして、Kさんの発話が終了すると、板書係は板書するタイミングを獲得しホワイトボードへ向かったのではないだろうか。

## 4.まとめ

板書に書く内容に関して、それぞれの意見や結論を端的にわかりやすく板書していた。板書内容を確認する手段として、書記の方のパソコンを見て板書するシーンも見られた。他の人に促されることなく、司会がまとめ始めたりそれぞれの意見の切れ目ぐらいに担当者自身のタイミングで板書を始めていた。

中でもKさんの話に大きく頷いて理解を示し、自らが板書するタイミングを作りだしたシーンも見られた。

## 謝辞

まず、被撮影者として撮影にご協力いただいた徳島大学の学生の皆様と K 氏(訪問看護ステーション T)、小俵ミエ子氏(徳島大学大学院)に深くお礼申し上げます。その他、本調査報告書作成にあたってご助言をいただいた、川島理恵氏(日本学術振興会・埼玉大学)、堀田裕子氏(中京大学)、西田厚子氏(京都橘大学)、家根明子氏(京都橘大学)に感謝の意を申し上げます。

## 《参考文献》

山田富秋 1999 「会話分析を始めよう」好井裕明・山田富秋・西阪仰『会話分析への招待』世界思想社：1 33